

ALIC/MLA 牛肉需給情報交換会議の概要について

独立行政法人農畜産業振興機構

このたび、独立行政法人農畜産業振興機構（ALIC）は、豪州食肉家畜生産者事業団（MLA）と牛肉需給情報交換会議を開催しました。

本会議は昭和 62 年から相互国において、原則として毎年開催しており、今回で通算 18 回目となります。

1 日 時：平成 21 年 8 月 26 日（水）

2 場 所：豪州・クイーンズランド州バーン・バレー

3 参加者

ALIC 木下理事長、糸川食肉生産流通部審査役、小田垣食肉生産流通部食肉需給課課長補佐、玉井シドニー首席駐在員

MLA ドン・ヒートリー会長、アンドリュー・マッカラム国際市場・トレードサービス担当マネージャー、近藤美穂子トレードサービス日本担当マネージャー

4 会議内容

ドン・ヒートリー会長と木下理事長の挨拶の後、MLAから豪州の牛肉需給等について、ALICから日本の牛肉需給等について説明し、双方の意見交換を行った。

<MLAからの牛肉需給についての説明概要>

- ・ 豪州の牛飼養頭数については、近年の干ばつにより 2007 年、2008 年は若干減少したが、このところ北部を中心とした天候条件の回復に伴い、徐々に生産者の牛群再構築の意欲が高まっている。この結果、2013 年には 2,964 万頭（2008 年比 8.5%増）に達すると予測

- 牛肉生産量（枝肉ベース）も、2010年以降はと畜頭数の増加を反映して穏やかに増加し、2013年には243万トン（同12.6%増）となると予測
- 牛肉輸出量（船積重量ベース）は、2009年は輸出需要および牛肉生産量の減少などから、95万トン（同1%減）と一時的に減少するものの、景気回復などから2010年は100万トン（同5%増）になると予測。また、輸出相手先としては、日本、米国、東南アジア向けはそれぞれ増加する一方、韓国向けは減少すると見込む。
- 中・長期的に見ると、世界の消費量は、南米、中国、東南アジアなどで中流階級が増加し、次第に増加するものと見込む。
- 豪州牛肉産業にとって日本は非常に重要な貿易パートナーであり、日本からの需要に応じ、今後も安定的な供給を継続してゆく所存である。
- 豪州国内の牛肉消費量（枝肉ベース）は、2009年は経済の減速に伴い、消費者が牛肉に対する支出を減らす傾向にあることや牛肉生産量の減少などから69万トン（同5%減）と2年連続で減少すると予測。
- 牛肉の消費促進について、MLAでは、調理のしやすさをアピールするため、食肉専門小売店などと連携して牛肉を使った商品開発などに努めている。

お問い合わせ先

食肉生産流通部食肉需給課

小田垣、桑川

電話 03-3583-8727